

国保直営総合病院 君津中央病院にワイレスウォッチャを導入 臨床検査室における検体保管設備の温度記録と監視に！！ ワイレスウォッチャがISO15189取得を支援致します。

- ロガー単体では難しかった、集中監視をリーズナブルに提供
- インキュベータ、冷蔵庫、冷凍庫などの温度記録と監視
- 検体などの保存設備の適切な温度記録と管理

株式会社チノーは、君津中央病院にイーサネット接続と特定小電力無線を組み合わせた「**ワイレスウォッチャ MD8000受信器Ethernet接続対応**」を用いた無線式モニタリングシステムを構築した。

ワイレスウォッチャであれば、ISO15189を取得するのに必要な、検体などの保管設備の温度監視システムを、有線工事にかかっていた手間や費用をかけずに構築する事が可能である。



国保直営総合病院君津中央病院は千葉県の大災害拠点病院であり、救命救急センターでもある。

運用状況



冷蔵庫への設置状況
マグネット付取付ホルダーで装置に固定



インキュベータへの設置状況
庫内温度に加えてCO₂、O₂濃度もワイレスウォッチャで一元管理



病院内に点在する保管設備の温度データは、ワイレスウォッチャによって一元管理され、検体や薬品が適切な温度で保管されていた履歴を自動で残すことが可能となった。それにより温度管理の記録業務にかかっていた業務負担を大幅に軽減した。さらに多彩な警報判定機能と外部出力により保管設備の温度があらかじめ設定してある温度範囲を超えた場合には、どの保管設備で温度異常が発生したかを管理者へ即座にメールし、迅速に対処することが可能となった。

導入経緯

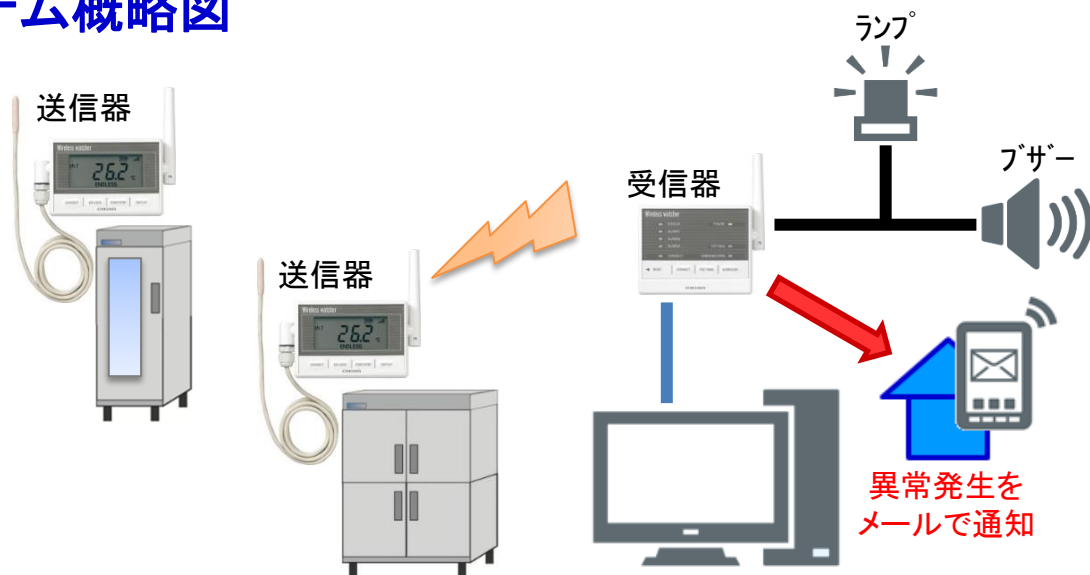
従来検体などの温度管理は、保管設備ごとに記録計を設置し、定期的に温度データを回収、保管する人手に頼った運用方法で温度管理を実施していた。

この方法ではスタッフへの負担が大きく、突然発生する温度異常には即座に対応ができないという課題があった。

しかし院内に点在する記録計を一元管理するためには、装置の更新と大掛かりな配線工事が必要となるため、新築や改築時でないとは困難な場合が多く導入が進まなかった。しかし、「**臨床検査室の品質と能力に関する要求事項を定めた国際規格ISO15189**」を取得するには、保管設備の温度管理を行い適切な記録と管理が求められる。さらにインキュベータ、冷蔵庫、冷凍庫などの温度制御された装置は温度の安定性、均一性を立証するとともに温度監視が必要とされる。

これらの課題を解決するために、無線で複数箇所のデータを一元管理でき、万一温度異常が発生した場合は、即座にメール通報可能なワイヤレスウォッチャが採用された。

システム概略図



特長

- ・複数箇所に設置されている保管設備の温度データを一元管理
- ・温度異常発生時には、メールや接点出力にて異常をお知らせ
- ・PCレス警報監視に対応。受信器単独での24時間監視が可能
- ・JCSS認定業者による定期校正や現地点検が可能

株式会社チノ

民生機器営業部
〒173-8632 東京都板橋区熊野町32-8
TEL: 03-3956-2131 (直通)
FAX: 03-3956-8767

ワイヤレスウォッチャMD8000シリーズの詳しい情報は、株式会社チノのホームページに掲載しています。

URL: <http://www.chino.co.jp/products/wireless/>